

# 行雲流水

No.100 令和3年9月24日発行

「おのれの力」を試す

校長 寒河江 正人

明日は、3年生の**実力テスト**（4回目）。  
そして、「**北村山中学校新人総体**」の初日。  
もちろん「**外部の活動**」に取り組む生徒もいる。

向き合う対象は、それぞれ違えども、「**おのれの力**」を試すという点では同じこと。  
「**生徒諸君一人ひとりそれぞれ**」が思い描く「**自己実現の姿**」が、そこにある。

「**自分の目標**」を達成するために、「**自分の能力**」を鍛え、磨き、伸ばす。  
日々、こつこつ積み上げている「**学習や練習の成果・効果**」を公の場で試す。  
「**テストや大会**」などは、自己実現に向かう道の途上にある「**一つの通過点**」である。  
それぞれが「**自律**」しなければならない。

「**おのれの力**」を試す機会は、「**自分を高める**」ために避けては通れない。  
「**自己実現**」に向かうために、「**今の自分に何が必要なのか**」を気付かせてくれるからだ。  
「**前回のテスト・試合**」からここまで、自分は「**こういう学習・練習**」をしてきた。  
それがどのくらい効果的（**適正**）だったのか、その**成果・効果を試す**ことができる。

「**おおっ！ 今回は、こんなにできたっ！！**」  
「**やったぞ！ あの学習・あの練習が効果的（適正）だったのかも！**」  
こういう時は、**うれしい**。気持ちが**高まる**。ますます「**やる気**」が出てくる。

一方、もしかしたら、「**思い描いたとおりの成果**」が得られない場合もあり得る。  
しかし、それは「**取り組み方が適正ではない**」ことに気付いていないだけかもしれない。

大人も、子どもも、私たち一人ひとりに「**与えられた時間**」には、**限りがある**。  
その与えられた「**限られた時間の範囲**」の中で、  
「**適正な場所**」で、「**適正な方向**」に向かって、  
「**適正な方法（質と量）**」で積み上げられた「**努力は、決して結果を裏切らない。**」

そこに「**気付き、学ぶ**」ための機会が「**テストや試合**」である。